



0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 30 1 2 3 4 5

始



大正第...

山も霞了ま〜春衣〜浪風勢

成りわ 柳足い苗と小仕へ在

臣下也糸三懸を控〜毎

と〜こまわ仕人此度い所願成

然〜手海る或もも成らん事

唯今邦下向仕い 或〜成り也

巻も成長果成りをながき長〜



大正 10 内交

二 濱乃高砂も明と能満傳ひて
三 行能よ早くも丸語乃関こえ
二 是も教のつ春國の浪波乃里に
三 清ふみりきく 千みりし能
二 也柄の橋もはく海なる浪波乃
三 也も幾久し 雪もも梅の冬
二 ころわらぬ冬も色濃きしより
一

廿二 夫天長く地久しし神代乃
三 風も果よつりりし人よは
二 一しき身代乃さひ詠を國を
三 免を刃民城なつて四方におき
二 まぬハ島の浪弱まらば日能
三 本乃影ゆとりあ海時三り也
二 下考 表り野小岳葉摘つて万代を

上

能なる心う志成光景なきく
 おまほひはる濃く潤物をま
 地まよや路の直なる流代を
 あふく世と関乃大まきり
 まる阿まよと照は日影かく
 以て小是あ成り人よ君ぬ
 子能い こす詞 へ那と暮るまきり

ワヤ詞

早

何事まきり 早 一きや
 徳木こう多む中ふ是あ成梅の
 本陰をまきりしし陰を清め
 賞穀一好ふも不富よあう
 ろんも一は梅は名木よえい
 清染成尺を禮人朝養人小く由
 座人の此なるは養満よをい

之

とさちとななる梅花を清き苑一々
名木のともは清き苑ハ清き苑なふ
横よさうゆん ツ上カレ ます乃或能
草木この盛ハおんを我や華の
中よ或初なまは梅花を花乃兄
花乃色里 子詞 其上梅の必所く
園ハ所冬多らまは古と家乃如清

うへ哥もも流波乃梅さう清き
う所 子詞 清代もひさき一棠花と
いひ 子詞 秀きを表りれよと
元上 宛にも角あもつこの園能こや邦
路乃なまははよあ我ええ吹や
このり那哉名木りとの清き苑
子あさう一まは清き苑 実く

兼波乃梅のりし必本や〜
其れ歌を過なりけりありしな
然ハ歌も兼波はよ〜
花乃籠をどハ色と〜
花乃表を〜
つりな〜
〜
〜

兼波の片子を皇太子那〜

〜位は〜

梅乃花は〜

兼波の君は位小侍をわ〜

時ハ〜

天下乃〜

今を〜

下

下

下

下

早

下

下

下

さへはまたりり也君くは秋ハ
下在 下
舟毛又水く船を字りあさ也
くりきや小乃あわて見せえ烟
大原民の窠ハよきりひにわ
覚敷通にのき万とも奪なく也
やえくあはまは此君は世く小
あやーをひとるも実を数え

見ことあわ園くにあまはく三
下
有港片調由あそ神一其年月も
極き神人演乃高砂の敷積里て
雲ハ冬年子内調物ゆ敷可故
下
よや中く旅増よもさし浪寶養
上
子秋萬葉乃ちはこの玉をな家
あハ著きみく旅長以侍く一見

深うしんハ將能かよ浪も廓く
ひ詠ふは惠築波山の陰よまも
志久光侍院ハ大君能國な我え
おもよ本成業へさうりあは清の國
の款波乃梅の名あおふ白も
四方母あまもくく一花界とまは
天下に那をなまきや万代乃を

安堂うめくくきき 上幸地 萬代乃
お能をくくきき 下 一花界とまは
なまは乃者系くくきき 下 西白お
上 へまなまおふ款波はよ香濃
一舞おまもに唱詠乃お能お
表詠をううきき 上 不思縁や
片方旅なまきはくく 心を花の虫

舞樂をうまひ新ふるまふ
新すやは梅の衣なみ華乃精
上花
一人乃や人ハ
新波はよ 咲やこの花と詠
所々位をなめ申せし百濟園乃
下
五になまやいまもこのソ歌母
下
たをまきもさくはわのあさ

くさくさの雪乃下ひ新曲終
三下
慰めや色しや下似し人待新人
花の志さかしまちたかへ
後上
花の心ひりし色を東よま
来亦とり色有枝花りしめ
下
ひく愛冬にも西乃海よ向ふ
新波の衣なみ新月新まもま

まゝ浪もあ乃舞樂を面白や
夢りーさまー好ふ那よ 是ハ
歎波能浦よを城つてひつとあ
在くの恵ミを字くあこのり那
まゝや姫乃神良なるを 是又
百濟國よわ此國よわつち忍哉
あゝめ國を曾家王に覺いりー

お人なり 音に遣乃法字よん
由代のかく尺のうを城う修
治まゝ浪代浪棠花をあーくも
この花の匂ひ 又ハひつとあ
あゝ乃葉能緑 歎波乃るり
法なゝぬ遊ひたハあまきさく春
舞樂面白や 梅らえにきあは

管楽也
鼓乃昔む
なむれ君
時の然
鐘もひ
浪子あり
菫藻糸音
何連哉
なむれ君
時の然
鐘もひ
浪子あり
菫藻糸音
何連哉

祿教昔む
侍代な
為樂や
此管
徳代に
秋風未
も祿古
祿教昔む
侍代な
為樂や
此管
徳代に
秋風未
も祿古

11
511

大正十年十一月十日印刷
大正十年十一月十五日發行

東京市麹町區飯田町五丁目二十三番地
精興出版會社代售者

發行所 和 田 幹 男
印刷者 川 面 義 雄

發行所 東京市麹町區飯田町五丁目二十三番地
精興出版會社



終

